



Global Annual Report

活動概要レポート

2013年4月 ~ 2014年3月



すべての人々が安全な水と衛生設備を使うことができる世界 — それが **WaterAidのビジョン**です。

WaterAidのミッションは、世界で最も貧しい地域に安全な水と衛生環境を届けることによって、人々の暮らしを変えていくことです。WaterAidは、活動の効果を最大限に高めるために、パートナーと協力し、意思決定機関への働きかけを行っています。

2013 年度、WaterAid の支援者の方々の努力が様々なかたちで実を結びました。その一部を、このレポートでご紹介します。ここに登場するコミュニティの人たちが成し遂げた進歩が、皆さまにとっても希望の光となれば幸いです。

アニュアル・レポートは動画でもご覧いただけます。
www.wateraid.org/annualreport

このレポートに掲載されているデータはすべて WaterAid ウェブサイトのデータを転載したものです。
www.wateraid.org/statistics

終わらない危機	4
すべての人が、すべての地域で	6
WaterAid の活動地域と支援実績	8
支援を届ける：	
シエラレオネ	10
インド	12
東ティモール	14
エチオピア	16
ニカラグア	18
変化を起こす：	
働きかける	20
行動を変える	22
メッセージを広める	24
支援の輪	26
会計報告・組織情報	28
主な協力企業・団体	30
WaterAid Japan の活動	34



7億4800万人

の人々が、安全な水を使うことができません。



25億人

の人々が、衛生設備を使うことができません。



1,400人

の子供たちが毎日、水・衛生を原因とする病気によって命を落としています。



2013年度、WaterAidの支援で

200万人が安全な 水を利用可能になりました

1981年以降、WaterAidのサポートで
安全な水を利用できるようになった人
の数は2,120万人に上ります。



71%

農村部

21%

都市部

8%

小さな町

2013年度、WaterAidの支援で

300万人が衛生 設備を利用可能 になりました

2004年以降、WaterAidのサポートで
衛生設備を利用できるようになった人
の数は1,810万人に上ります。



78%

農村部

15%

都市部

7%

小さな町

Everyone, everywhere

すべての人が、すべての地域で

WaterAidでは、2030年までに、すべての人が、すべての地域で、安全で清潔な水、トイレ、衛生環境を手に入れられるようにしたいと考えています。人々の健康や教育、生活を支えているのは、そうした基本的な公共サービスです。そしてそれが、厳しい貧困を撲滅するための最も大切な柱でもあるのです。

2013年度に起きた変化

WaterAidは世界中で、政府機関から支援対象の規模をさらに数百万人拡大するというコミットメントを引き出せるよう働きかけを行いました。「万人のための衛生と水 (Sanitation and Water for All) パートナーシップ」の半期会議では、20か国以上の開発途上国の代表者が2030年までに水と衛生のユニバーサルアクセスを達成すると約束し、さらに多くの国々が同年までに野外排泄を根絶するというコミットメントを発表しました。

2013年度に実現した支援

2013年度、WaterAidはパートナーを通して200万人に安全な水を、300万人に衛生設備を届けました。また、およそ400万人に対して、石けんで手を洗う、安全にトイレを使う、飲み水を安全に保管する、食品の衛生管理を行う、月経中に衛生的な状態を保つ、といった衛生習慣を促進する活動を行いました。

2013年4月-2014年3月 支援を届けた人数



水 / 衛生

中央アメリカ

① ニカラグア
2,000 / 1,000

西アフリカ

② ブルキナファソ
53,000 / 150,000

③ ガーナ
73,000 / 27,000

④ リベリア
12,000 / 19,000

⑤ マリ
37,000 / 49,000

⑥ ニジェール
10,000 / 6,000

⑦ ナイジェリア
116,000 / 308,000

⑧ シエラレオネ
6,000 / 16,000

東アフリカ

⑨ エチオピア
177,000 / 218,000

⑩ タンザニア
148,000 / 271,000

⑪ ウガンダ
41,000 / 87,000

⑫ ケニア*

⑬ ルワンダ
8,000 / 1,000

南アフリカ

⑭ マダガスカル
61,000 / 110,000

⑮ マラウイ
44,000 / 105,000

⑯ モザンビーク
53,000 / 50,000

⑰ ザンビア
46,000 / 55,000

⑱ スワジランド*

⑲ レソト*

アジア

⑳ インド
466,000 / 374,000

㉑ ネパール
81,000 / 105,000

㉒ バングラデシュ
331,000 / 620,000

㉓ パキスタン
172,000 / 338,000

東南アジア

㉔ カンボジア*

㉕ 東ティモール
4,000 / 4,000

太平洋地域

㉖ パプアニューギニア
4,000 / 3,000

メンバー国

1. カナダ**
2. アメリカ
3. イギリス
4. スウェーデン
5. 日本
6. オーストラリア

In the wake of war

内戦の爪痕が残る中で

シエラレオネは10年におよぶ内戦で村々が壊滅的な被害を受け、現在も給水設備やトイレ設備の多くが壊れたままになっています。WaterAidは現地の政府機関やコミュニティを支援し、こうした生活に不可欠な公共サービスの再建を進めることを通して、この国の人々が生活を立て直す手助けを行っています。

人々の命を奪うコレラ

紛争中、人々は家を棄てて避難することを余儀なくされ、その間に井戸もたくさん破壊されてしまいました。安全な水や衛生設備のない状態に陥った人の数は、人口のほぼ半数に上ります。ハワ・トゥライさんがバーマ村に戻ったとき、水を手に入れる方法はただ1つ、近くの川で水をくむしかありませんでした。けれどもこの川は、地元の病院から出る廃棄物で汚染されていたのです。不幸にも、ハワさんの子どもたちのうち3人が、コレラにかかって命を落としてしまいました。

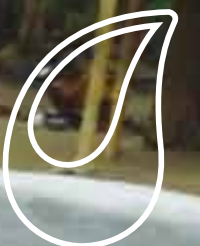
コミュニティ自らの力で

WaterAidの現地パートナーは、ハワさんの村のようなコミュニティをサポートし、壊れたインフラの再生や衛生環境の改善を行う活動を実施しました。ハワさんの村では、地元の人たちで組織された委員会に給水・衛生設備のメンテナンス訓練を行い、コミュニティの人たちが自らの手でより良い未来を築けるように支援しています。

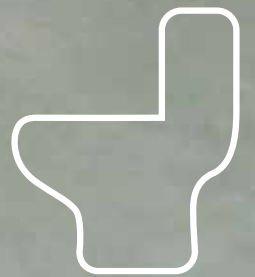
「川の水も何もかも本当に汚くて、まるで戦争が起きたみたいに、どんどん人が亡くなっていました。」

－ ハワ・トゥライさん：シエラレオネ、ブジェハン県

2013年度、シエラレオネでは



6,000人が
安全な水を



1万6,000人が
衛生設備を
利用可能になりました

240万人が

現在も安全な水を利用
できないまま生活して
います

2013年度、インドでは



46万6,000人が
安全な水を



37万4,000人が
衛生設備を
利用可能になりました



毎年インドでは

**18万6,000人
を超える
子どもたち**が

不衛生な水しかなく衛生設備
も整っていないために、下痢
で命を落としています。

「いろいろな人たちの家へ行っ
て、手を洗うようにとか、野
菜は洗ってから切るようにと
指導しました。私の言ってい
たことにはちゃんと意味があ
るって、今ではみんな分かっ
てくれています。私は小さな
存在かもしれないけれど、私
が話していたのはとても大
きなことなのです！」

ー プージャさん：インド、
ウッタル・プラデーシュ州

Ending open defecation, one community at a time

野外排泄をなくすため、コミュニティを
1つずつまわって地道に活動

インドでは8億人近い人たちがトイレのない生活を送っています。WaterAidは政府機関やコミュニティのリーダーたちと協力して野外排泄をなくす活動を展開。この活動が、人々の命を救うことに直結しています。

変えていく力

24歳のプージャさんは、本当の意味でのリーダーです。ウッタル・プラデーシュ州カーンプルの都市スラム地区に暮らすプージャさんは、水・衛生委員会のメンバーとして精力的に活動し、トイレの利点についての認識を高め、若い女性や女の子たちに月経中の衛生管理について指導しています。

プージャさんの活動が実を結び、現地当局はトイレ30基を備えた衛生設備を使えるようにすることに同意。プージャさんはコミュニティでこの設備を維持する料金制度の作成に着手しています。コミュニティのリーダーとしての役割を果たすことで自信をつけたプージャさんは、美容師養成講座に申し込みました。いつの日か、自分のビューティサロンを開きたいと思っています。

未来を見据えて

こうして芽生えた変化が将来的にもずっと続いていくように、WaterAidは現地パートナーと協力して、このようなプロジェクトのモニタリングを実施。設備が完成してから1年後、3年後、5年後、10年後に、その設備が機能しているかどうかをチェックしています。プージャさんと認識を同じくする何千人もの人たちにとって、安全な水とトイレは来るべき世代の命を救い、暮らしを変えてくれるものなのです。

東ティモール

Business built on water

水から生まれたビジネス

東ティモール、リキシャ県の山間にポツンと佇むある村には、給水・衛生設備のメンテナンス訓練で学んだことを活かしてビジネスを成功させている人たちがいます。

売り切れるほど人気のトイレ

ヌンハウ村に暮らす25歳のセレスティーナさん。彼女は家族でキオスクを営んでおり、村の人たちに食料品を販売しています。つい最近、WaterAidのパートナーがこの地域に安全な水を利用できる給水設備を設置し、良好な衛生環境についての啓発活動を行いました。それ以来、この新しくできた公共サービスを支えるビジネスが、どんどん広がっています。セレスティーナさんの夫のシルベリオさんは、WaterAidが出資している訓練コースでセメント製便器の製造を学びました。彼の作るトイレは大人気となり、初回製造分はすべて売り切れてしまいました！

村の人たちにアドバイス

今ではこのキオスクは、みんなが水やトイレの話をしに来るネットワーク拠点のようになっています。村の人たちはこのキオスクに来ては、給水設備や衛生設備についてアドバイスを受けたり、自宅のトイレの設置や修理に必要な部品を買ったりしています。みんなが自分の知っていることを他の人たちと共有し、お互いに助け合える場所があるこの村では、この公共サービスを今後もしっかり機能させていけることでしょう。

「給水システムのどこかが故障したら、うちに来てスペアの部品を買えば直せるよ、とみんなに言っています。私たちが村のみんなに語りかけ、みんながうちに来て必要なものを買えるから、確実にシステムを使い続けられます。」

－ セレスティーナさん：東ティモール、ヌンハウ村

2013年度、東ティモールでは



4,000人が
安全な水を



4,000人が
衛生設備を
利用可能になりました



東ティモールの人口の
約3分の1が

安全な水を利用できません。
適切な衛生設備を利用できない
人の数は、人口のほぼ3分の2
に上ります。

2013年度、エチオピアでは



17万7,000人が
安全な水を



21万8,000人が
衛生設備を
利用可能になりました

「家のすぐ近くで水を
くめるようになったの
で、娘たちが休まず学
校に行けるようになりました。」

– ターフィさん:エチオピア、
アディ・シバット村

How gravity changed a community

重力で暮らしを変えた村

水を手に入れるために毎日大変な思いをしていたアディ・シバット村の人々は、村の地理的条件を利用することで、その辛い毎日を終わらせることができました。

危険との闘い

アディ・シバット村は、エチオピア、ティグレ州の高原地帯にある辺境の村。ここでは女性が毎日歩いて水をくみに行っていました。それは大変な労働というだけでなく、恐怖と隣り合わせの仕事でもありました。女性たちは危険な道を登って行き、ようやくたどり着いた小さな池で水をくんでいましたが、その池にはヒルがたくさんいました。自分たちの心配もさることながら、飼っている牛の健康も心配でした。ヒルを呑み込んだら牛は死んでしまうかもしれません。牛を失うことは、自分たちの生活を失うことでもあるのです。

大きく動き出した村

岩場の多いこの地帯では、井戸を掘るのはまず無理でした。けれども、村の人たちが水源にしていたのは、山に湧いている天然の泉からできた池だったので、それを活かして安全な水を利用できるようにすることは可能でした。そこでWaterAidは資金を募り、その泉に覆いをして貯水池を建設し、重力を使って水を流下させるパイプラインを敷くことにしました。

技術的なノウハウはWaterAidと現地パートナーが提供し、そのシステムを建設する重労働は村の人たち自身が担いました。今では、村の中心にある給水設備の蛇口をひねれば、いつでも安全で清潔な湧水を利用することができます。



2013年度、ニカラグアでは



2,000人が
安全な水を



1,000人が
衛生設備を
利用可能になりました



ニカラグアの中心から遠く離れたカリブ海北部地域では

80%の人が

現在も安全な水やトイレのない生活を送っています

「今までトイレ設備の作り方なんて知らなかったけれど、そのスキルを学べて本当に良かったと思います。」

－ コラさん (17歳) : ニカラグア、ビルウィ

Turning teens into entrepreneurs

10代の若者を起業家に

WaterAidがニカラグアと一緒に活動しているのは、薬物や非行に走りかねない状況にある若者たち。水・衛生に関するスキルが不足しているという問題の解決に関わってもらうことで、若者たちはより良い未来を描けるようになっていきます。

貧困を脱出するチャンス

ニカラグア北端に位置する北大西洋自治区の首都ビルウィは、海に面した賑やかな街。ここに暮らす10代の若者たちの多くが、仕事に就けないという状況に直面しています。17歳のコラさんは、WaterAidの訓練コースに入ったことで、貧困から抜け出すチャンスをつかみました。10代という不安定な年頃の仲間と一緒に、コラさんはビジネス・スキルやプロジェクト管理、井戸掘り、トイレの建設といった新しいことを学びました。

明るい未来

現在コラさんは、自分で5人も雇ってチームを作り、地元の村にトイレを建設する仕事を運営して生計を立てています。全世帯の半分しかトイレを利用できない街では、配管工は非常に珍しく貴重な職業です。安定した仕事に就き、自分が手頃な価格で提供する水・衛生サービスがコミュニティの役に立つことが分かっているコラさん、そして新しく訓練を受ける他の若者たちには、明るい未来が約束されているのです。

Influencing others 働きかける

2030年までに「すべての人が、すべての地域で」水と衛生の設備を利用できるようにするには、世界中のリーダーたちが、最も貧しく最も取り残されている人たちに支援を届けるというコミットメントを明確に行う必要があります。

国連

WaterAid UKのCEOバーバラ・フロストは、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長と共に、国連総会で演説を行いました。フロストは、安全な水とより良い衛生設備、衛生環境が、貧しい人々、特に女性や女の子たちの生活にどれほど大きな影響をもたらすかを強調し、この問題を国連の貧困撲滅アジェンダの中心課題として、継続的に取り組むことの必要性を訴えました。

南アジア

WaterAidは南アジア衛生会議でもメッセージの浸透を図りました。南アジアは、2011年に前回の会議が開催されてから推計75万人の子どもが下痢で命を落としているということからも、非常に重要な地域です。WaterAidは諸パートナーと協力し、2023年までに野外排泄をなくすというコミットメントを各国の政府機関から取り付けるため、精力的な活動を行いました。

万人のための衛生と水

2014年4月に開催された「万人のための衛生と水(Sanitation and Water for All)パートナーシップ」会議では、20か国以上の開発途上国の代表者が2030年までに水と衛生のユニバーサルアクセスを達成すると約束し、さらに多くの国々が同年までに野外排泄を根絶するというコミットメントを発表しました。WaterAidの支援者の方々の要請を受け、イギリスのジャスティン・グリーニング国際開発大臣がこの会議に出席。イギリスが2015年12月までに安全な水と衛生設備を6,000万人に届けるという約束を果たす路線で進んでいることを明確に示しました。

Changing behaviour

行動を変える

水と衛生の公共サービスを効果的に機能させるには、石けんで手を洗う、トイレを安全に使う、飲み水を安全に保管する、といった適切な衛生習慣が欠かせません。衛生習慣はプライベートな内容に触れることなので議論するのが難しく、タブーとされていることさえありますが、WaterAidの諸パートナーは、そうしたことに慎重に配慮しながら何百万人もの人々に働きかけ、各コミュニティの衛生習慣改善へのモチベーションを高めてきました。

月経中の衛生管理

2013年度、WaterAidは女性と少女たちに対する支援として、月経衛生管理プログラムを14か国で実施しました。その一例が、ウガンダ、カンパラ市のカササ校。この学校に通う思春期の少女たちは、鍵のかかる個室のトイレを利用して体を清潔にしたり、ナプキンを変えたりできるようになりました。パキスタンでは各地の学校で開催した計200回の講習に3,000人の生徒と先生が参加、インドでは地元の業者が生理用ナプキンを無理なく買える価格で販売しました。

楽しみながら学べるエデュテインメント番組

バングラデシュでは、「ジョル・ダンガ(水と大地)」という子供向けテレビ番組をWaterAidがサポート。この番組に登場するカラフルなパペット人形のキャラクター6人が歌と踊りを繰り広げるなかで、テレビを観ている120万人の子どもたちに、気候の変動や水と衛生の問題について学んでもらえるようにしました。

2013年度、世界中で



およそ400万人の
衛生習慣が向上しました



2013年度、
バングラデシュで
開催された
月経衛生管理を
学ぶセッションに

6万人以上が

参加しました

「学校の個室トイレで体をきれいにできるようになったので、月経中でも学校を休まなくてよくなりました。」

－ マリア・ステラさん(12歳)：ウガンダ、カンパラ市、カササ校(写真最前列)

Spreading the message

メッセージを広める

水と衛生の危機に対する認識を高めることも、WaterAidの重要な活動です。認識が高まることで結果的にこの問題に注目が集まり、多くの人の後押しを得て、意思決定機関に取り組みを拡大するよう大きな圧力をかけることができます。

「ママ・ブロガーズ・フォー・ソーシャルグッド (Mom Bloggers for Social Good)」のジェニファー・バーバーさんは、ニカラグアを訪れて目にした様子をTwitterでレポート。アメリカでは世界水の日(Twitterで大きな話題になりました。また、スウェーデン皇太子妃がタンザニアご訪問時にWaterAidの活動を見学されたことが、メディアで大きく取り上げられました。オーストラリアでは、WaterAidマラウイ代表を務めるマーシー・マッソーが各地をまわり、水と衛生の危機について講演を行いました。

イギリスでは、歌うトイレの「ルイ・ザ・ルー」が世界トイレの日にソーシャル・メディアで一大旋風を巻き起こしました。世界水の日にはロンドンのカナリー・ワーフ地域に特大のインタラクティブな滝を出現させ、もっと多くの人に安全な水と衛生を届けるようイギリス政府に嘆願する何千人分もの署名を掲げました。



YouTube視聴回数

40万回



Twitterフォロワー数

6万7,000人



Instagramフォロワー数

2万6,000人



Facebookファン数

8万2,000人

Thank you 支援の輪

WaterAidを支援してくださる方々の輪は世界中に広がり、その留まるところを知らない素晴らしいご支援のおかげでWaterAidの活動が可能になっています。

「ギビング・チューズデー(#GivingTuesday)」の日にアメリカでWaterAidの「ダブル・イット(#doubleit)」キャンペーンに参加して合計25万ドルを集めてくださった方々、スウェーデンのラジオで144時間にわたってマラソン放送された音楽イベント「ムシークイエルペン(Musikhjälpen)」で母子の健康のために募金してくださった一般の方々、オーストラリアで「ウォーク4ウォーター(Walk 4 Water)」に参加し、1日に1万歩を歩いて合計14万5,000オーストラリア・ドルを集めてくださった方々、何か月もの練習を重ねてWaterAidのチャリティーのためにロンドン・マラソンに挑戦して下さったランナーの方々―皆様のご支援のおかげで、水と衛生の危機に対する認識を広めることができ、活動に不可欠な資金が集まりました。

日本では、11月から1月にかけて、クラウドファンディングサイト「READYFOR?」でエチオピアの村に安全な水を届けるための寄付キャンペーンを実施しました。83人の方々にご支援いただき、初挑戦のクラウドファンディングを成功させることができました。また、認定NPO法人の要件を満たすために、3000円以上のご寄付を呼びかけたところ、多くの方よりご賛同・ご協力いただきました。

WaterAidグローバル連結会計報告^{*1}

下記の数字はすべてWaterAidメンバー国の監査済み会計報告を連結して英ポンド・日本円^{*2}に換算した金額です。

2013年度グローバル連結収入

WaterAid UK	6,440万ポンド (115億92百万円)
WaterAid America	430万ポンド (670万米ドル) (7億74百万円)
WaterAid Australia	560万ポンド (920万オーストラリア・ドル) (10億8百万円)
WaterAid Sweden	600万ポンド (6,200万スウェーデン・クローナ) (10億8千万円)
WaterAid Canada	150万ポンド (240万カナダ・ドル) (2億7千万円)
合計	8,180万ポンド (147億24百万円)

2013年度グローバル連結支出

水・衛生	5,740万ポンド (103億32百万円)
ファンドレイジング	1,680万ポンド (30億24百万円)
関連費用	730万ポンド (13億14百万円)
合計	8,150万ポンド (146億7千万円)

^{*1} WaterAidメンバー国(イギリス、アメリカ、オーストラリア、スウェーデン、カナダ)の全オフィスの連結収支総額です。

^{*2} 日本円は1ポンド180円で計算しています。

WaterAid Japan 会計報告

活動計算書 (単位:円)

〈収入〉		〈支出〉	
受取会費	68,000	事業	
受取寄付金	15,902,373	情報発信	3,973,601
事業収益	156,612	講演会・イベント	2,978,712
その他収益	11,428	水・衛生事業/募金	5,064,986
合計	16,138,413	管理	2,295,851
		合計	14,313,150

貸借対照表 (単位:円)

〈資産の部〉		〈資産の部〉	
流動資産		流動資産	
現金預金	1,947,064	未払金	438,413
未収収益	9,028	預り金	159,880
立替金	146,239	未払法人税等	70,000
仮払金	65,483	負債合計	668,293
固定資産		〈正味財産の部〉	
ソフトウェア	224,910	前期繰越正味財産	▲64,529
保証金	36,303	当期正味財産増減額	1,825,263
資産合計	2,429,027	正味財産合計	1,760,734
		負債及び正味財産合計	2,429,027

WaterAid Japanの役員

理事長 滝沢 智 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)

理事 赤羽 真紀子 (CSRアジア日本代表)
池上 清子 (日本大学大学院総合社会情報研究科教授)
橋本 淳司 (ジャーナリスト/アクアスフィア代表)
高橋 郁 (ウォーターエイドジャパン事務局長)

監事 和仁 亮裕 (伊藤 見富法律事務所 (Morrison&Foerster) 弁護士)

Thank you

主な協力企業・団体 ー イギリス

イギリスでは現在、44万2,000の企業・団体、個人の皆様からWaterAidにご支援をいただいています。ここに掲載させていただく方々をはじめ、皆様方の温かいご厚志のおかげで、2013年度も数百万人の人々に支援を届けることができました。心よりお礼申し上げます。

@ワンアライアンス
アダム・スミス・インターナショナル社
アフィニティ・ウォーター社
アレグラ財団
アライアンス・ディスポーザブルズ社
アンディ・ヒルトン氏
アングリアン・ウォーター・サービス社
アングロ・アメリカン・グループ財団
アクイラハイウッド社
グレートブリテン・アイルランド・
インナーホイールクラブ
ATASS財団
アヴェダ社
バルフォー・ビーティー・
ユーティリティ・ソリューションズ社
バーハイル・コンストラクション社
ベル・ウォーター社
イギリス国営くじ基金
ビル・トーマス氏
ブラック・アンド・ビーチ社
ブリッジズ・エレクトリカル社
ブリストル・ウォーター社
ブリティッシュ・ウォーター協会
ケンブリッジ・ウォーター社
CH2M ヒル社
クリス・ロコス氏
シティ・オブ・ロンドン・スクール
CIWEM
クランシー・ドクウラ社
コミック・リリーフ
ダンプニーズ社
デカンター誌
ディアジオ社
ドバイケア
オランダWASHアライアンス
ウェールズ・ウォーター (DCWW)
エコパール(イギリス)社
イギリス環境庁

エッシュ・グループ
エセックス&サフォーク・ウォーター社
欧州委員会
欧州投資銀行
フリーティスレーソル社
富士フィルム・ヨーロッパ社
ガリフォード・トライ社
イムテックUK社
GBM
ジェネラル・パネル・システムズ社
ゲオルグ&エミリ・フォン・オベル財団
ジョージ・ローゼンフェルド氏 親族・友人
グラストンベリー・フェスティバル社
ゴーランド&ドーソン社
グロントメイ社
ガーンジー海外援助委員会
H&Mコンシャス財団
ヘンネス&モーリッツ社
HSBCホールディングス社
ICAP社
インディスカ社
インスティテュート・オブ・ウォーター
アイリッシュ・エイド
J.P.モルガン社
ジェイコブス社
ジャージー海外援助委員会
JNベントレー社
ケルダ・グループ
ケンツ・エンジニアリング・アンド・
コンストラクション社
キアー社
イギリス諸島・アイルランド
国際ライオンズクラブ
マーティン・カリー・
インベストメント・マネジメント社
マトキ社
MDNX社
メディコール財団
MGF
ミーレ社
マイルドレン・コンストラクション社
三菱商事欧州アフリカ基金
モット・マクドナルド社

MWHグローバル社
イギリス自然環境研究委員会
天然資源ウェールズ
ニール・アームストロング・アンド・
ザ・ファーストフロー・グループ
クウェート・ニュー・
イングリッシュ・スクール
ノメンカ社
北アイルランド・ウォーター社
ノーサンブリアン・ウォーター社
ヨーク大主教
オフワット
ペニー・サンダース氏
ピープルズ・ポストコード・
ロッターリー参加者
ポーツマス・ウォーター社
モナコ大公アルベール2世財団
レディオエールパン(スウェーデン・
ラジオ審議会)
グレートブリテン・アイルランド
国際ロータリー
ロトルク社
グラスゴー大学:サルサ4ウォーター
セーブ・ザ・チルドレン・フィンランド
スコティッシュ・ウォーター社
セルウッド社
セムコープ・ボーンマス・ウォーター社
スコットランド環境保護庁(SEPA)
セバーン・トレント・ウォーター社
シマヴィ
スカンスカ社
グレートブリテン・アイルランド国際
ソロプチミスト
サウスイースト・ウォーター社
サウススタフォードシャー・
ウォーター社
サウスウェスト・ウォーター社
サザン・ウォーター社
スタンリー・トーマス・ジョンソン財団
サットン&イーストサリー・ウォーター社
スウェーデン国際開発協力庁

スイス開発協力庁
テムシス社
テール・ヌーヴェル
テムズ・ウォーター・ユーティリティーズ社
アルケミー財団
オーストラリア外務貿易省
クリスティーナ・グッダル・
チャリタブル・トラスト
フォスター・ウッド財団
グリミット・トラスト
ホーン財団
ジョン&サリー・リープ・
チャリタブル・トラスト
ロータス財団
ノースウィック・トラスト
ランワース・トラスト1985
シャンレイ・チャリタブル・トラスト
ストーンファミリー財団
スウェーデン・ポストコード・ロッターリー
ウォータールー財団
トラント・エンジニアリング社
UKaid(イギリス国際開発省)
ユニセフ
ユニリーバ社
ユナイテッド・ユーティリティーズ社
米国国際開発庁
ビトル財団
都市貧困層のための水と衛生
水供給衛生協調会議
ウォーター 4オール
WaterAidローカルグループ・
ネットワークのボランティア
WaterAidスピーカー・ネットワークの
ボランティア
WaterAid学生団体
ウォーター UK
ウェセックス・ウォーター社
ホイットブレッド・ホテル&レストラン
ワイルド&ウルフ社
ウッドマンスターン出版社
世界保健機構(WHO)
ヨークシャー・ウォーター社

Thank you 主な協力企業・団体 — 日本

アビームコンサルティング株式会社
認定特定非営利活動法人イーパーツ
株式会社イオンフォレスト
(ザ・ボディショップ)
花王株式会社
花王ハートポケット倶楽部
gooddo株式会社
第一学院高等学校宇都宮キャンパス
TechSoup Japan(日本NPOセンター)
BSIグループジャパン株式会社
株式会社ファンケル

皆さまのご支援 ありがとうございました

企業との連携が少しずつ広がりました。株式会社ファンケルからは、毎年8月に行われるシニアゴルフトーナメント「ファンケル クラシック」会場における、ギャラリーの皆さまからの募金などを通じて、WaterAidをご支援いただきました。アビームコンサルティング株式会社からは、WaterAidのネパールならびにエチオピアの水・衛生プロジェクトにご支援いただいたほか、ウォーターエイドジャパンの新事務所設立に際し、机、椅子等のオフィス家具を寄贈いただきました。ザ・ボディショップは、チャリティリップバターの売上の一部を、WaterAidを含む3団体にご寄付くださいました。同商品を購入した人が、支援したい分野に投票する参加型のしくみによって、多くの方に途上国の水・衛生問題に関心を持っていただくことにつながりました。

WaterAid Japanの活動

政策提言 第5回アフリカ開発会議(TICAD V)

アフリカ開発会議(TICAD)は、日本政府が国連、世界銀行等と共催するアフリカの開発をテーマとする国際会議です。2013年6月に横浜で開催されたTICAD Vにおいて、ウォーターエイドジャパンは、水・衛生に関する公式サイドイベントを主催しました。ブルキナファソのウエドラオゴ水・水利・衛生大臣より基調講演をいただいたほか、WaterAid 東アフリカ地域アドボカシー部長 ベツレヘム・メンギスツが、水と衛生問題に取り組む重要性について提言しました。



情報発信 セミナー・イベント・メディアを通じて

6月に「ウォーターエイドジャパン設立記念セミナー」を東京国際フォーラムにて開催、2月にはWaterAid UKのCEOバーバラ・フロストが講演する「すべての人に水と衛生を」セミナーを三菱商事CSRステーションMCForestで開催し、WaterAidの活動や途上国の水・衛生危機に関する情報発信に努めました。また、ウォーターエイドジャパンが事務局を置く墨田区が主催するエコライフ講座や大学などで講師を務めたほか、イベントへのブース出展も多数行いました。メディアを通じた情報発信にも取り組み、日本水道新聞や水道公論、在日英国商工会議所の機関誌ACUMENなどでWaterAidの活動や日本法人の設立が紹介されました。

開発教育 世界トイレの日に「トイレにありがとう」

2013年、国連によって、11月19日を世界トイレの日とすることが公認されました。ウォーターエイドジャパンはその日、埼玉県的第一学院高等学校埼玉キャンパス(埼玉県さいたま市)にて出前授業「トイレにありがとう」を実施。ゲームを通じてトイレの大切さを学んだ後、世界では25億人がトイレのない生活を送っていること、そのため多くの子どもたちが命を落としていることを伝え、最後に、生徒1人1人がトイレに感謝するメッセージやイラストを書きました。この日の授業の様子は、NHKの全国ニュースで取り上げられました。





特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

〒130-0004

東京都墨田区本所 3-15-5 ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA 201

Tel: 03-3829-0678 / Fax: 03-5608-1567 / Email: info-japan@wateraid.org

エチオピアの新しい給水設備できれいな水をポリタンクにくみ微笑むエタレムさん

Photo : WaterAid / Mustafah Abdulaziz